平和の続く世界へ

半田市立乙川中学校　２年　前田　凛

１　原爆ドームを見て

原爆ドームは教科書やテレビでしか見たことがありませんでした。実際に見ると形は残っていても壁全体にヒビが入っていたり、鉄の階段が曲がっていたりなど大規模な爆破が起こり大きな被害が及んだことが分かりました。原爆ドーム付近は穏やかな街並みが広がっていましたが、原爆ドームだけが時が止まっているように感じました。

２　広島平和記念資料館を見て

平和資料館には、大火傷を負った人の写真や被爆者の方の衣服などの遺品が多くの展示がありました。特に印象に残ったものは黒い雨です。原爆時は水が無かったため傷ついた人々は乾いた喉を潤すために雨粒を飲み込んでしまいました。それを放射能と知らずに。生きるために飲んだ雨水なのに苦しい痛みや長い苦痛が伴い命を落としてしまい、現在も苦しんでいる人々がいると知りすごく心が痛くなりました。

３　語り部さんの話を聞いて

語り部さんは当時 13 歳で中学生でも国のために働かされていました。語り部さんは戦時中、大切な食料を集めるために国に命令され 20Km 離れた田舎に行き助かったそうです。爆発した様子を遠くから見ると、太陽が落ちてきたように見えたそうです。しかし、国へ経過報告を行う為、原爆が起こった広島市に行かなければなりませんでした。道中、大火傷を負った人々がたくさん歩いており、ものすごく心が痛くなったそうです。広島市は放射線にのまれ、語り部さんもその影響で長年癌と戦っています。私は語り部さんの話を聞き、原爆で命を落とすだけではなく、現在も放射線と戦い苦しんでいる人々がいるということに原爆の残酷さを思い知らされました。

４　広島平和ツアーで感じたこと

私は広島平和ツアーに参加して、原爆の残酷さや悲惨さを改めて思い知らされました。教科書やテレビで見ていても他人事のように見ていたため実際に足を運び、見たり聞いたりしたことで他人事ではないと気づき世界にはまだ核兵器が多く存在し、現在も苦しんでいる人がたくさんいるということを身近に感じることができ、どれほど残酷で悲惨なものかを深く実感しました。原爆は一瞬にしてたくさんの命を奪い、たくさんの人の幸せな日常を奪うため、絶対に原爆や戦争をしてはいけないと思いました。これからは、日々の日常が当たり前の日常だとは思わずに精一杯生きていきたいです。